



American  
Heart  
Association.

## 2026 年版 心臓病と脳卒中の統計アップデート ファクトシート アメリカ人の子どもと心血管疾患（心臓や血管の病気）

### 院外での心停止（OHCA）

- 2024 年に、1~18 歳で院外での心停止（病院に着く前に心臓が止まってしまうこと、OHCA）を起こし、救急隊の治療を受けた子どものうち、17.1% が病院を退院できるまで回復しました。
- 2002 年から 2015 年に、アメリカ・オレゴン州ポートランドで 18 歳以下に起きた突然の心停止（心臓が急に止まり血液を全身に送れなくなる病気）のうち、39% はスポーツ中に起きたものでした。
- 2024 年に救急隊が対応した院外での心停止は、1 歳未満の乳児では 92.1%，1~18 歳の子どもでは 81.1% が自宅で発生したものでした。

### 先天性心血管欠損（ICD-10 コード Q20~Q28 [病気を分類する番号]）

- 2017 年には、先天性心血管欠損（生まれつき心臓や血管のでき方に問題がある状態、CCDs）は、世界のすべての地域で、乳児（1 歳未満）が亡くなる原因の上位 8 つの 1 つでした。また、2019 年には、世界で約 1,330 万人が先天性心血管欠損とともに生活していると推定されました。
- 1990 年から 2017 年のデータによると、アメリカを含む北米の高所得国では、生まれてくる赤ちゃん 1,000 人につき 12.3 人が先天性心血管欠損をもっていると考えられています。
- アメリカにおける年齢による違いを調整して考えると、先天性心血管欠損が原因で亡くなった人の割合は、1999 年から 2017 年の間に減りましたが、2017 年から 2023 年のあいだはほとんど変わりませんでした。この変化のしかたは、人種、民族、性別によってちがいがありました。

### 子どもの脳卒中（ICD-10 コード I60~I69）

- 子どもの脳卒中の原因是、大きく 3 つのグループに分けられます。（1）体のつくりや遺伝に関係する原因（先天性心疾患【生まれつき心臓に問題がある病気】、遺伝による血管の病気、コラーゲンの異常【体を支えるたんぱく質の問題】）、（2）血液や遺伝に関係する原因（遺伝性血栓性素因【血が固まりやすい体質】、鎌状赤血球症【血液の病気】）、（3）あとから受けた影響による原因（感染症、けが、放射線、薬）
- 脳卒中のある 355 人の子どもを、いくつかの病院で約 2 年間にわたって調べました。その結果、脳卒中がもう一度起った人の割合は、1 か月後で 6.8%，1 年後で 12% でした。

### 高血圧（血管の中を流れる血液の圧力が高い状態が続く病気）（ICD-10 コード I10~I15）

- 18 歳以下の子どもで 2 型糖尿病のある人について、60 件の研究をまとめた調査（「系統的レビュー」といいます）によると、3,463 人のうち 25.3% に高血圧（血管の中を流れる血液の圧力が高い状態が続く病気）がみられました。
- SHIP AHOY という分析では、11~19 歳の 397 人の思春期の子どもを調べました。これは、ある時点で多くの人を調べる研究で、「横断的コホート研究」と呼ばれます。その結果、起きている時間に日常生活の中で測る血圧で、同じ年ごろの子どもたちの中で上位 5% にあたる血圧（95 パーセンタイル）を基準にすると、収縮期血圧（心臓が縮んだときの血圧）が高い人は 17%，拡張期血圧（心臓が広がったときの血圧）が高い人は 11% でした。2017 年のアメリカ心臓病学会／アメリカ心臓協会の大人の高血圧の基準（130/80 mmHg 以上）を使ってみると、血圧の高い人は多くなり、心臓が縮んだときの血圧が高い人は 27%，心臓が広がったときの血圧が高い人は 13% でした。

特に記載のない限り、本ファクトシートに記載されているすべての統計は米国に関するものです。報告されている統計の参考文献および追加情報については、完全版の統計アップデートを参照してください。

©2026 American Heart Association, Inc. All rights reserved. 許可なく使用することは禁止されています。

### たばこやニコチンの使用とばく露（たばこを吸ったり、煙や蒸気を吸ったりすること）

2024年のデータでは、

- 高校生の10.1%、中学生の5.4%が、過去30日間にたばこ製品を使ったと回答しました。そのうち、紙巻きたばこを吸った人は、高校生1.7%、中学生1.1%でした。
- 過去30日間に、かみたばこなどの無煙たばこを使った人は、高校生1.5%、中学生0.8%でした。
- 葉巻を使った人は、高校生1.5%、中学生0.8%でした。
- 電子たばこを使った人は、高校生7.8%、中学生3.5%でした。
- 2024年の調査では、紙巻きたばこについては、白人の青少年（1.4%）とヒスパニック系の青少年（1.6%）は、使用したと答える割合が、非ヒスパニック系の複数人種の青少年（2.1%）よりも低くなっていました。一方、葉巻については、黒人の青少年（2.2%）の割合が、白人（0.9%）やヒスパニック系（1.4%）と比べて最も高くなりました。

### 高コレステロール血症およびその他の脂質異常（血液の中のコレステロールや脂肪が多い状態）

- 2021年から2023年のデータによると、6～11歳の子どもの血中総コレステロール値の平均値は158.3 mg/dLで、男子は159.2 mg/dL、女子は157.4 mg/dLでした。
- 同じ期間のデータでは、12～19歳の若者の血中総コレステロール値の平均値は154.8 mg/dLで、男子は151.9 mg/dL、女子は157.9 mg/dLでした。
- 2017年から2020年に調べた12～19歳の若者では、総コレステロールの値があまり良くない人の割合は6.1%で、健康に良いとされる値の人の割合は71.8%でした。
- 同じ時期に調べた12～19歳の若者では、高比重リポタンパク質コレステロール（善玉コレステロール、血管を守るはたらきがある）の値があまり良くない人の割合は14.1%で、健康に良いとされる値の人の割合は69.4%でした。
- 同じように、低比重リポタンパク質コレステロール（悪玉コレステロール、血管にたまりやすい）の値があまり良くない人の割合は4.8%で、健康に良いとされる値の人の割合は83.7%でした。
- トリグリセリド（中性脂肪、エネルギーとして体にたくわえられる脂）については、値があまり良くない人の割合が6.7%、健康に良いとされる値の人の割合が77.9%でした。

### 身体活動（PA【体を動かすこと】）

- 2022年から2023年に、保護者の回答をもとに調べた全国データでは、毎日60分以上体を動かしていた子どもの割合は、6～11歳で25.6%で、12～17歳の若者の13.7%より高くなっていました。6～17歳の若者で、毎日60分以上体を動かしていた人の割合は、白人の若者22.3%、黒人18.1%、ヒスパニック系16.3%、アジア人13.1%でした。
- 2021年から2023年にかけて、12～17歳のティーンエイジャーのうち、筋力トレーニング（筋肉を強くする運動）を1週間のほとんどの日、または毎日行っていた人の割合は、35.8%（男子44.4%、女子26.7%）でした。
- 2022年から2023年の全国データでは、学校のある平均的な1日に、勉強以外で、テレビ、パソコン、スマートフォンなどの画面を1日4時間以上見ていた人は、6～11歳で17.8%、12～17歳で36.5%でした。

特に記載のない限り、本ファクトシートに記載されている統計は米国に関するものです。報告されている統計の参考文献および追加情報については、完全版の統計アップデートを参照してください。

©2026 American Heart Association, Inc. All rights reserved. 許可なく使用することは禁止されています。

## 過体重と肥満

- 2021年から2023年のNHANES（アメリカの健康調査）のデータによると、2~19歳のアメリカの子どもと若者のうち、肥満（体に脂肪がたまってしまった状態）の割合は全体で21.1%（男子23.0%，女子19.1%）でした。肥満の割合は年齢が上がるほど増え、2~5歳で14.9%，6~11歳で22.1%，12~19歳で22.9%でした。
- 同じく2021年~2023年のアメリカの健康調査のデータでは、2~19歳のアメリカの子どもと若者のうち、肥満の中でも特に重い状態（重度肥満）の割合は、全体で7.0%（男子7.8%，女子6.3%）でした。重度肥満の割合も年齢が上がるほど増え、2~5歳で3.4%，6~11歳で6.5%，12~19歳で8.9%でした。

## 糖尿病（ICD-10～E14）

- 2023年には、12~17歳の若者のうち約840万人が、前糖尿病（血糖値が高めだが、まだ糖尿病ではない状態）と考えられています。これは、アメリカの同年代の32.7%にあたります。
- 2021年には、20歳未満の子どもと若者35万2,000人が、糖尿病と診断されました。これは、アメリカの若者1万人あたり35人にあたります。この中には、1型糖尿病の30万4,000人が含まれます。

## 健康的な食事

- 2013年から2020年の調査では、2~19歳の子どもたちの食事を「生活に欠かせない8のこと」のスコアで表しています。これは、食事を0~100点で評価する方法で、点数が高いほど食事の内容が良いことを示します。この平均スコアは43.9点でした。人種・民族別では、アジア人で50.3点、メキシコ系アメリカ人で48.9点、白人で44.1点、黒人で32.5点でした。
- 2015年から2016年のデータによると、米国の子どもや思春期の若者における、心臓や代謝（身体の働き）の健康に関連する、特定の食品や栄養素の平均的な摂取量が以下に示されています。
  - 全粒穀物—摂取量は少なく、1日あたり0.95食分でした。
  - 果物—摂取量は少なく、1日あたり0.68食分で、年齢が上がるほど少なくなる傾向がありました。果物を多く食べていたのは、アジア系やその他（多民族を含む）の若者で、次に白人、他のヒスパニック系、メキシコ系アメリカ人、黒人の順でした。
  - でんぶんを多く含まない野菜—摂取量は少なく、1日あたり平均0.57食分でした。摂取量は年齢とともに増える傾向がありました。
  - 魚と貝類—摂取量は少なく、1日あたり平均0.06食分でした。摂取量は年齢とともに増える傾向がありました。
  - 砂糖入り飲料—1日あたり1.0食分で、年齢とともに増える傾向がありました。
  - お菓子やケーキなどの甘いデザート類—アメリカの若者が食べたり飲んだりする総カロリーの平均6.07%を占めました。
  - ナトリウム（塩分）—摂取量は1日あたり3.33gで、年齢が上がるほど増える傾向がありました。
  - 飽和脂肪—摂取量は、総カロリーの12.1%でした。
  - ナッツ・種子類—摂取量は少なく、1日あたり平均0.40食分でした。
  - 加工肉—1日あたり0.27食分で、女子より男子のほうが多く食べていました。
  - 食物繊維—摂取量は1日あたり15.6gでした。

特に記載のない限り、本ファクトシートに記載されている統計は米国に関するものです。報告されている統計の参考文献および追加情報については、完全版の統計アップデートを参照してください。

©2026 American Heart Association, Inc. All rights reserved. 許可なく使用することは禁止されています。

## アメリカ人の子供と心血管疾患（CVD）—2026年版 統計アップデートファクトシート

ファクトシート（事実をまとめた資料）, インフォグラフィック（図やイラストで説明した資料）, および最新／過去の統計アップデート出版物は、次の場所からダウンロードできます。

[心臓病と脳卒中の統計 | アメリカ心臓協会](#) (英語のウェブサイト)。

このファクトシートに載っている多くの統計は、統計アップデート文書のために作られた、未公表の集計データから来ています。これらの統計は、下に示す文書の引用情報（情報の出どころとして正確な文書名を示すこと）を使って引用することができます。集計に使われたデータの出典は、完全版のファクトシートに一覧として掲載されています。また、一部の統計は、すでに公表された研究からのものです。このファクトシートにある統計を引用する場合は、完全版の「心臓病と脳卒中に関する統計」文書を確認し、データの出典と元の引用文献を確認してください。

アメリカ心臓協会は、完全版の文書の引用時に次の記載を含めることを要求します。

Palaniappan LP, Allen NB, Almarzooq ZI, Anderson CAM, Arora P, Avery CL, Baker-Smith CM, Bansal N, Currie ME, Earlie RS, Fan W, Fetterman JL, Barone Gibbs B, Heard DG, Hiremath S, Hong H, Hyacinth HI, Ibeh C, Jiang T, Johansen MC, Kazi DS, Ko D, Kwan TW, Leppert MH, Li Y, Magnani JW, Martin KA, Martin SS, Michos ED, Mussolino ME, Ogungbe O, Parikh NI, Perez MV, Perman SM, Sarraju A, Shah NS, Springer MV, St-Onge M-P, Thacker EL, Tierney S, Urbut SM, Van Spall HGC, Voeks JH, Whelton SP, Wong SS, Zhao J, Khan SS; on behalf of the American Heart Association Council on Epidemiology and Prevention Statistics Committee and Stroke Statistics Committee. 2026年版「心臓病と脳卒中の統計」：アメリカ心臓協会の米国およびグローバルデータのレポート *Circulation*. Published online January 21, 2026.

メディアからのお問い合わせは、すべて News Media Relations <http://newsroom.heart.org/newsmedia/contacts> (英語のウェブサイト) にお願いいたします。

特に記載のない限り、本ファクトシートに記載されている統計は米国に関するものです。報告されている統計の参考文献および追加情報については、完全版の統計アップデートを参照してください。

©2026 American Heart Association, Inc. All rights reserved. 許可なく使用することは禁止されています。